

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
大蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】 | 主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できていることが望ましい知識・技能 | <ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

(2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

※ 本校の6年生は、単学級ですので、個人が得点されるような公表の方法については、配慮しています。

大蔵 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

| | | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B |
|--------|----|------|------|------|------|
| 平成24年度 | 本市 | 79.4 | 52.2 | 70.4 | 56.1 |
| | 全国 | 81.6 | 55.6 | 73.3 | 58.9 |
| 平成25年度 | 本市 | 60.3 | 46.3 | 74.6 | 56.5 |
| | 全国 | 62.7 | 49.4 | 77.2 | 58.4 |
| 平成26年度 | 本市 | 69.1 | 52.6 | 76.2 | 55.4 |
| | 全国 | 72.9 | 55.5 | 78.1 | 58.2 |

② 学力調査結果の分析

| | | |
|-----|-------------|---|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | ・無解答率は年々減少している。 ・話し合いの観点に基づいた情報の関係付け等、話すこと・聞くことに課題がある。 |
| | よくできた問題 | ・新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する問題は、正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・話し合いの記録の仕方として適切なものを選択する問題は、正答率が低かった。 |

| | | |
|-----|-------------|---|
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | ・読むことについては全国平均との差は小さい。 ・話し合いで、質問の意図を捉えたり、目的に応じて観点を整理したりすることに課題がある。 |
| | よくできた問題 | ・詩の表現の特徴として適切なものを選択する問題は、無解答率が低く正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・司会の発言の内容をまとめて書く問題は、無解答率が高く正答率が低かった。 |

| | | |
|-----|-------------|---|
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | ・無解答率は低くなった。 ・算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力を付ける必要がある。 |
| | よくできた問題 | ・比較量の求め方の式を選択する問題は、正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・小数の計算、減法と乗法の混合した整数の計算は、無解答率がやや高く正答率が低かった。 |

| | | |
|-----|-------------|---|
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | ・情報を基に論理的に考えることができてはじめて。 ・記述する問題の無解答率が高く、解き方を書き表す機会を増やすことが必要である。 |
| | よくできた問題 | ・情報を整理して考え、小数倍の長さの求め方を記述する問題は、正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・示された情報を解釈し、適した図を選択する問題は、正答率がかなり低かった。 |

③ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・発表するときに、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していると答えている児童は、全国と比較してもその差が広がっている。各教科等の授業の中で組み立てを意識して発表する機会を増やしていくことが必要である。

・算数で学習したことを普段の生活で活用できるか考えていると答えている児童は、全国と比較しても少ない。授業で習得した算数の学力を生活科や総合的な学習の時間の学習で積極的に活用し、生かしていく経験を増やしていく。

・自分で課題を立てて情報を収集整理し、発表していく学習活動へ取り組んでいると答えている児童は、全国と比較しても多い。本校の総合オンラインワン研究の取組の成果である。今後も実践研究の充実を図っていく。

・授業で分からないことをその場で教師に尋ね解決を図っている児童の割合は、全国の2倍以上と高い。児童の問題解決に対する教師の支援内容をより工夫し、学力向上へと結び付けていく。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・1時間以上家庭学習している児童の割合は全国平均と比べても平日で27.7ポイント、休日で11.5ポイントもの開きがあり、学習習慣の確立に課題が見られる。そのために、学年ごとの学習時間のめやすを示し、課題等の出し方の工夫をしながら家庭と連携しながら具体的な取り組み方を指導していく必要がある。

・自分で計画して学習に取り組んでいる児童の割合がH25年度より増加した。しかし、全国平均には及ばない。継続して計画表等を活用し、見直しをもって家庭学習に取り組むように指導していく必要がある。

・読書については、全国平均と同程度まで向上が見られた。今後も、学校の図書館の活用を中心にしたよりよい読書習慣の確立を図っていくことが必要である。

② 生活習慣等に関する調査結果の分析

・生活習慣では、規範意識や挑戦意欲が、全国平均とは大きな開きが見られる。地域をよりよくする意欲も全国平均との開きが広がっている。しかし、研究テーマの年度末アンケート調査では、地域をよりよくしたいという意欲は高まる傾向にあるので、生活科や総合的な学習の時間、道徳等の取組とも関連付けながら、年間を通しての指導を進めていく必要がある。

・児童が悩み等についての相談する相手は、アンケート調査もとにした教育相談活動の成果として、教師を積極的に選択している。今後も継続して相談活動等の充実を図っていく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎学力向上のための特設時間の実施

・朝学習の時間に、「読む力」の育成のために、週に2回(月・木)「読書タイム」を設定する。また、基礎・基本の力を育成するために、週に1回火曜日を「国語タイム」、水曜日を「算数タイム」として設定し、全校で一斉に実施する。

・定着を図るためのドリル学習を重視する。教材は、漢字・計算ドリルを基本として使用するが、アシストシート(学習済み単元分)等も積極的に活用する。

・国語・算数の過去問題やアシストシート等を積極的に活用し、6年生は1・2月に「小学校まとめ道場」、5年生は2・3月に「実力アップ道場」を実施し、問題の解き方等の指導を行う。

◎過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用

・単元学習後に理解の度合いを測るものとして、過去問題やWEB問題、活用力を高めるワークを活用する。

・アシストシートや過去問題を宿題として活用し、答え合わせ等で確実な理解を図る。冬休み・春休みには、アシストシートやWEB問題、過去問題を組み合わせたプリント集を配布し、家庭での宿題・学習教材として活用する。

◎「読む」「書く」ことを習慣化

・国語科では、文章の内容を読み深めることができるよう実態に応じた個への支援を行うとともに、読み取ったこと、感じたことを伝え合い、発表し合う活動を学習に位置付ける。

・算数科では、自分の考えを式だけではなく、図や言葉で書かせて説明できるようにする。

・後から見直しても、学習内容が想起できるノートの取り方やまとめ方ができるようにするとともに、授業のまとめ(分かったことや感想、自己評価等)を自分の言葉で書き表すようにする。単元の学習の途中で随時ノートの点検を行い、一人一人のがんばりを朱書等で評価する。

○「話す」力の向上

・聞き手を意識しながら組み立てを考えたメモ等を作成し、自分の考えを相手にうまく伝えられるような発表の仕方の指導を行う。

・朝・帰りの会等でスピーチの場を設定し、決められた条件の中で発表する経験を増やしていく。

○総合的な学習の時間・生活科の実践を通しての学力の定着

・教科等との関連を一層重視した学習展開を工夫し、教科等で身に付けた力を活用させる中で、学力の確実な定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎宿題のスタンダード化

・自主学習ノートを活用し、自分の課題に応じた学習が計画的にできるよう指導する。

・「家庭学習チャレンジハンドブック」を宿題等で活用するように呼びかけるとともに、毎月担任がチェックをし、有効な活用を図る。

・保護者に対する家庭での読書の推奨と、読書カード等を使った読書の把握、ならびに読書時間を増やすための支援を行う。

・冬休み・春休みの課題として、アシストシートやWeb問題、過去問題を組み合わせたプリント集を活用する。

○学習の時間のめやすの再徹底

・学校・学級だより、学級懇談会の場等を通して、学年ごとの学習のめやす(学年×10分+10分)の徹底を図り、家庭との連携を深めながら実践できるようにする。

◎全国学力・学習状況調査の課題と今後の取組等を保護者へ周知

・学校だよりや学校のホームページで保護者に学校での学力向上の取組を伝えていくと同時に、学習習慣や生活習慣の改善にかかわる啓発を継続して行う。

・学級・学年懇談会で学級や学年の課題と取組状況を説明し、理解と協力を得るようにする。個人懇談会では、保護者と話し合っって個別の課題を明確にするとともに学習習慣の育成等を家庭と連携して行うようにする。